

☆教育現場のキラリ☆

～子ども・地域生活習慣向上プロジェクト事業

「子ども・地域サポート事業」推進事業（日高管内）の取組について～

北海道教育委員会では、今年度から「子ども・地域サポート事業」推進事業をスタートさせました。本事業は、保護者をはじめとする地域住民が、子どもたちの「望ましい生活習慣」定着のための取組を企画・実施することを通じ、子どもたちの多様な学びや体験活動に対する意識を高め、「望ましい生活習慣」の定着に向けた取組の推進を図るものです。

今年度、日高管内では、新ひだか町、浦河町、えりも町の3町で本事業を実施することになっています。

今回は、えりも町教育委員会とえりも町市街地青少年育成協会が小学生を対象に実施した「子ども・地域サポート事業兼未来えりも学（知育）事業『スキルアップスクール』」の取組を紹介します。



この『スキルアップスクール』のプログラムは、学習活動と体験活動に分かれています。

学習活動に使用したテキストは、町教委が学力調査の結果をもとに正答率の低かった課題を重点的に学習できるよう独自に作成しました。

参加した小学生の学習をサポートするボランティアには、道教委「学校サポーター派遣事業」によって大学生のほか、高校生が参加しました。



えりも町出身で北海学園大学1年生の中村大器さんと、妹の北海道えりも高等学校1年生の中村優花さんは、共に教師を目指しているそうです。

現在、大器さんは、えりも町を離れ札幌で学生生活を送っていますが、地域の一員として、小学生の様々な活動を支えることの喜びや大切さを感じてくれたようです。

体験活動では、町外の講師による「フライングディスク体験教室」を実施しました。子どもたちはボランティアの学生たちと一緒に汗を流し、楽しい時間を過ごしていました。

えりも小学校4年生の増田陽さんは、「お兄さんやお姉さんに勉強を教えてもらったり、フライングディスクをしたりして楽しかったです。残りの夏休み中もしっかりと勉強やスポーツをがんばりたいです。」と話しており、地域住民などとの関わり合いを通して、子どもたちが多様な学びや体験活動に対する意識を高めました。



本事業の実施により、「望ましい生活習慣」の定着に向けた取組のきっかけになったものと考えています。

また、本事業に合わせて、保護者や地域の指導者などが、手軽に子どもたちと一緒に体を動かすことができるよう「フライングディスク指導者講習会」が実施されました。

参加者は、ルールや技術だけではなく、子どもたちへの声かけや子どもと共に地域でスポーツに親しむための環境づくりなどについても学ぶことができたようです。

（日高教育局教育支援課社会教育指導班 本田 憲司）